

# 横浜「市民」の海外交流

海外交流研究グループ

登場人物

父 四〇歳、卸売会社勤務  
母 三八歳、主婦

息子 一三歳、中学一年生

(日曜日の朝。横浜郊外に住む一家のダイニング。息子が遅れて起きてくる)

母 (ぼやきながら) 早く食事してね、お父さんとお母さんはもう終ったんだから。いつもバラバラなんだから、日曜の朝食くらい家族全員そろって食事したらどうかしら。後かたづけが大変だわ。

日本の国際化と自治体の交流?

子 (ヘッドフォンでラジオを聞きながらめずらしく朝刊を読み始め、そしてゴルフ道具を磨いている父に向って) お父

アメリカ	22件
アメリカ合衆国	19
その他	3
アジア・太平洋	14件
中国	4
その他	10
ヨーロッパ	4件

新聞(S.56.4) 新聞(S.57.3) 新聞(S.58.1) 新聞(S.59.1) 新聞(S.60.1) 新聞(S.61.1) 新聞(S.62.1) 新聞(S.63.1) 新聞(S.64.1) 新聞(S.65.1) 新聞(S.66.1) 新聞(S.67.1) 新聞(S.68.1) 新聞(S.69.1) 新聞(S.70.1) 新聞(S.71.1) 新聞(S.72.1) 新聞(S.73.1) 新聞(S.74.1) 新聞(S.75.1) 新聞(S.76.1) 新聞(S.77.1) 新聞(S.78.1) 新聞(S.79.1) 新聞(S.80.1) 新聞(S.81.1) 新聞(S.82.1) 新聞(S.83.1) 新聞(S.84.1) 新聞(S.85.1) 新聞(S.86.1) 新聞(S.87.1) 新聞(S.88.1) 新聞(S.89.1) 新聞(S.90.1) 新聞(S.91.1) 新聞(S.92.1) 新聞(S.93.1) 新聞(S.94.1) 新聞(S.95.1) 新聞(S.96.1) 新聞(S.97.1) 新聞(S.98.1) 新聞(S.99.1) 新聞(S.100.1)

さん、横浜ってずいぶん海外交流やっているんだね。

父 海外交流って、こんど来るサンディエゴのミッションの事か。今、テレビのニュースでやってたよ。

子 違うよ。それも交流だけと、この新聞の記事に出ている横浜市の海外交流の総合展のことだよ。「市民生活と交流とは？」ってその記事には書いてある。だから、横浜って、なぜこんなに多くの海外交流をするのかって聞いたの。

父 そうか、それはね。現在の国際社会は、アメリカやソ連、西欧諸国の経済力の相対的低下、産油国や中進国の台頭、発展途上国の借金の累積など問題が多いんだ。

子 それで。

母 (食卓のおかずが減らないので少しいらだちながら) 早く食事を済ませなさい、それでゆっくり話をしたら……。

子 はい、ごはん、おかわり!

父 学校で習ったと思うけど、日本は国土が狭く、人口が多く、資源が少ないの

で、資源を輸入し製品を輸出して食べてきたんだ。

子 習ったよ。加工貿易というんだね。

父 そう、日本は敗戦後、戦争への反省と飢えた中でよく働いて、より多くより改良された製品を作り輸出した結果、今のように国際経済の中で日本の役割も大きくなってきた。それも新しい問題となつてね。

子 新しい問題って。

父 例えば貿易摩擦ってやつだよ。それを解消しなくてはならなくなったんだね。わかるかい。

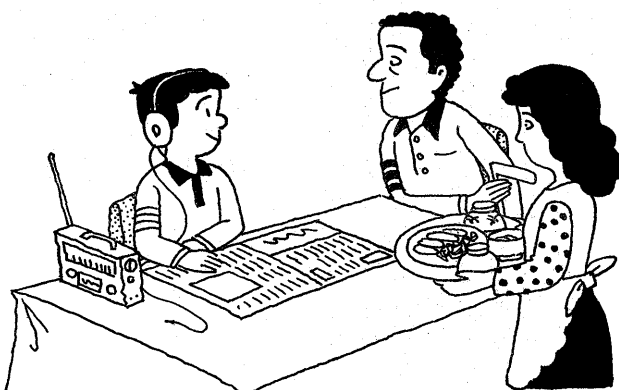
子 日本は貿易で食べているから、他の国々との摩擦によって貿易ができなくなると食べられなくなるといふことですよ。

父 そうだよ。そのため日本は世界の中で自分の役割を自覚して行動することが必要になってきているんだよ。それは、国際経済の諸問題に関係も深いので、その解決と一緒に貿易問題を解消できるように努力しているわけさ。

子 それと横浜はどう関係するの。

父 横浜は貿易で食べてきたからさ。

子 そうかなあ。横浜じゃなくて、その問題は日本全体の問題でしょ。政府がやればいいんじゃないの。でもこの記事によると、横浜の海外交流は貿易と余り関



係ないようだよ。勿論、経済交流もあるけれど。

父 それは……貿易摩擦は、日本のことがよく理解されないコミュニケーションのギャップから起こったという面もあるからね。海外により良く理解して貰うためには自治体や民間の活動も大切だからだよ。

子 そうかな、よくわからないよ。  
父 その交流展はどこでやってるの。  
子 西口のデパートで昨日から開かれています。  
父 よくわからないなら、それをみんなで見に行こう。母さんも行こう。

母 行こうじゃないわよ。(子どもの食べている食事を見ながら)早く食べたらどう、まだ残っているわよ。片付けてからでないで行けないわ。

子 もういいや、ごちそうさま。お母さんも見たいんですよ。ほら、デパートで買物もすればいいじゃない。  
母 全く勝手なんだから、じゃ全部片付けるわね。

横浜の海外との交流

(横浜駅西口にあるデパートの一〇階展示場。多くの市民で混雑している。パネルや物産品に市民が群がり、係員が汗だくで応対している)  
子 姉妹都市関係図か、上海との関係が

すごいんだね。

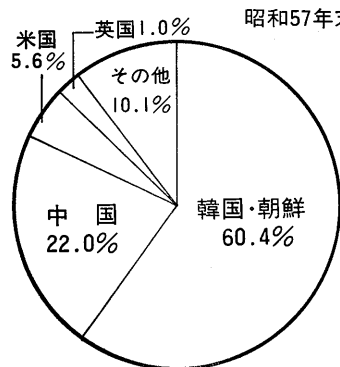
母 これは横浜に住む外国人登録者数の図だわ。周辺の延びが大きいのね。  
子 変な世界地図だね。横浜を中心にしているよ。

係員 横浜市の海外交流は、市民の皆様生活に身近な区役所でも行われています。又、経済交流は物産生活品も扱っています。そして、その他、研修生の受け入れを行い、地震とか道路、水道整備についての英語のパンフレットや、ヨークについては仏語のパンフレットも発行しています。

子 ヨークって何かな。乳酸飲料かな、係員のおじさん、教えてよ。

係員 ヨークは横浜市が市民の要望にお応えして、それまであったいくつかの海外交流事業団体を統合してつくった組織です。総務局国際課と共に、海外交流事業をより推進し世界各地の交流団体とネ

図一 市内在住外国人登録者数 昭和57年末



図一 2 姉妹都市関係統計表

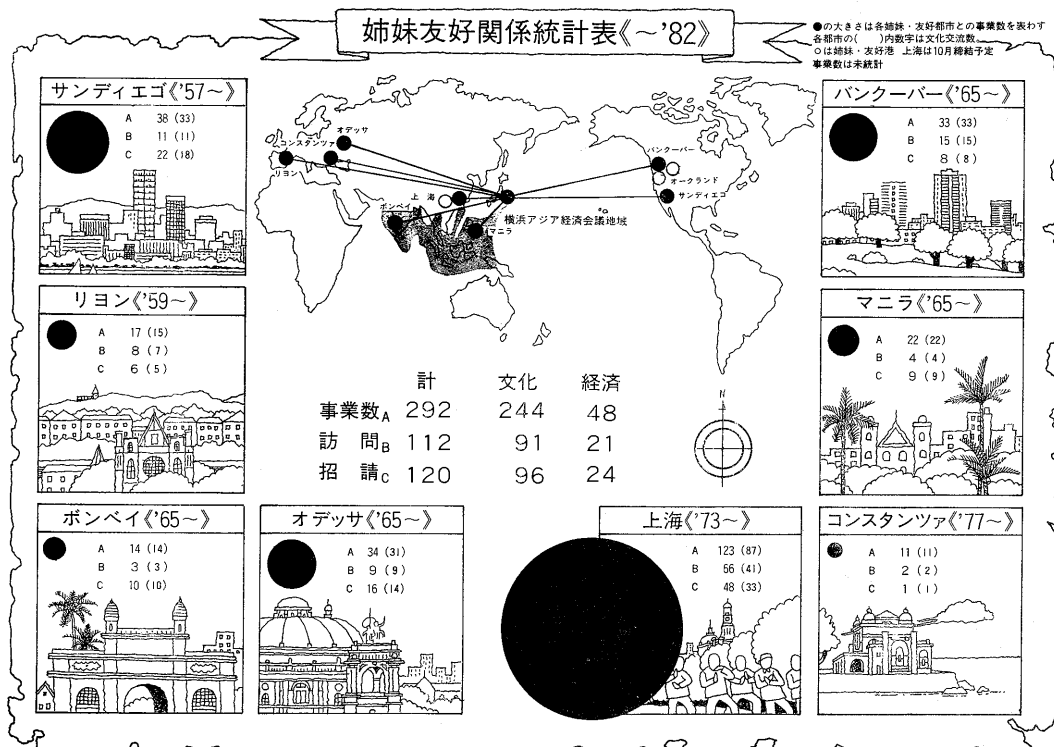


図-3 ヨコハマにとっての世界——市内企業の輸出地域から見た世界イメージ

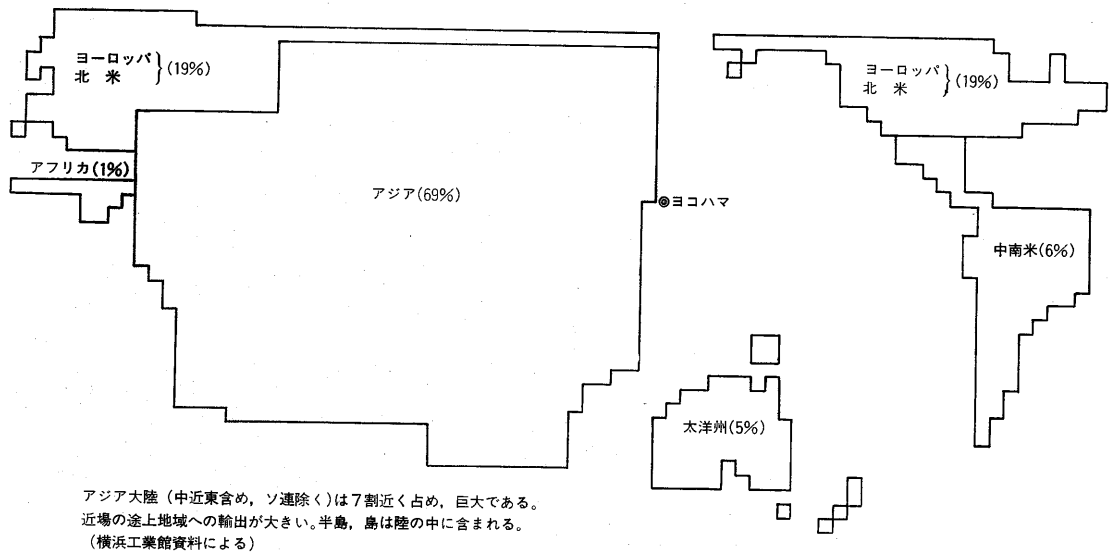


図-4 ヨコハマにとっての世界——横浜の貿易量比較から見た世界イメージ

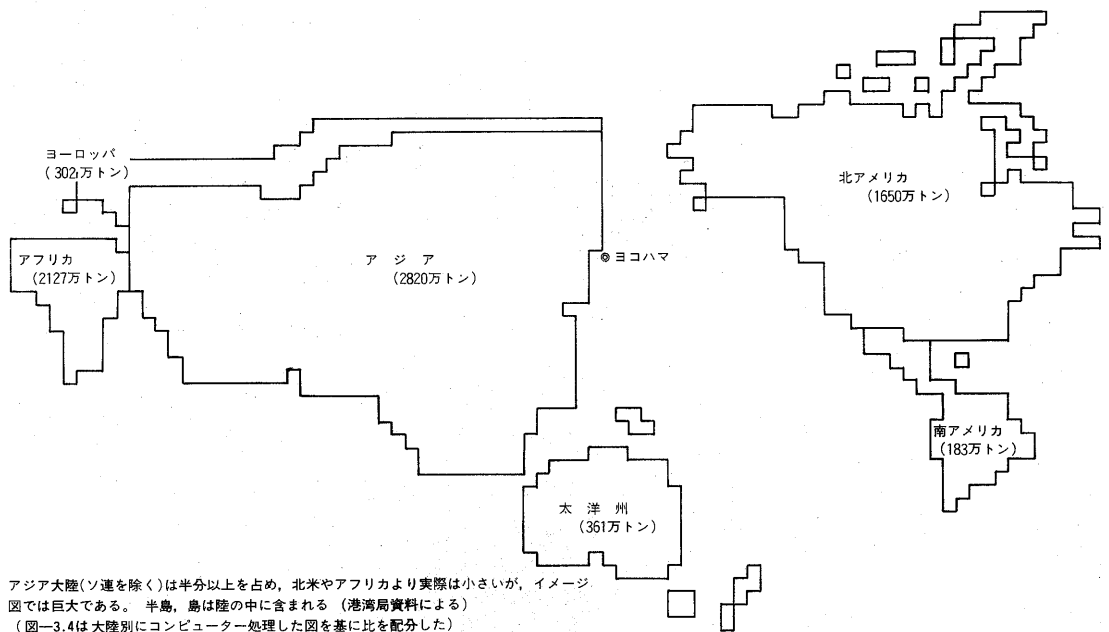
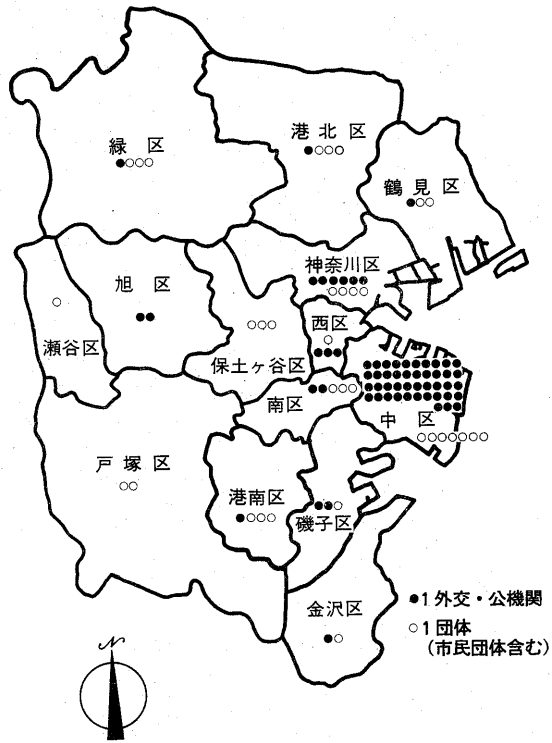


図-5 市内の海外交流団体の区別分布



ットワークをつくり、将来の地域の情報センターを目指しています。国連関係の団体名簿にも登録認知されています。父 そういう団体や市の機構があるので。横濱は本当に熱心ですね。係員 そうです。横濱市は二十一世紀をめざして横濱の未来を考えた「みなとみらい21」を… あちらに横濱の紹介フィルムを上映しておりますので、どうぞ御覧下さい。

（映画観賞後）一家は、世界に散らばる姉妹都市、アジアと横濱を結ぶ国際会議、海外交流を希望する市民アンケート結果、活躍する市民団体グループの数、英文広報紙や交流史のパネルを見てまわった）

子 これを見て、横濱の市民に在外国人や外人観光客も入るんだって。父 なにに、横濱という都市を舞台に活動する者はすべて横濱市民である——

父 そうだなあ……。中国人もアメリカ人も横濱に来れば市民ってわけか。子 僕みたいな子どもも市民の中にはいるのかな、お父さん。父 君が市民？ そうだなあ、市民になるね。そう、立派な市民だよ。（会場では、市のパンフレットや市民生活白書の販売や海外との文通のペンフレンドの登録をやっていた。父は白書を買った）

子 ねえ、お父さん、海外文通も海外交流事業だね。父 そうだよ。子 それなら僕も登録しよう。父 登録したいなら、しなさい。父さんと母さんはあそこの喫茶店で待ってるよ。（子どもは走って、会場にあるペンパルコーナーへ行った。父は会場を出て、そばの喫茶店に入り市民生活白書をめくり始めた。しばらくして）

子 父さん、僕、登録してきたよ。父 そうかい。ところで、自治体が交流する理由、わかったかい。子 たくさん海外交流事業をしていることはわかったけど、よくわからない。でも父さんが家で言ったようなことじゃないみたいだね。

父 そうね、父さんは、国際社会の中で日本経済の役割が大きくなったことが増大した自治体の交流の主な原因かと思っ

父 さっきまで私と関係ないことだと思っていた海外交流は、市や、やりたい人がそれなりにやる分には構わないと思っていた。でもね、今気付いたのだけれど、

海外交流の日常性

母 どういうことですか。

父 私も、この子が言ったように市民であることは当然だね、母さん。私みたいな平凡な者でも海外交流に係わっているような気がするんだ。

子 父さんも何かやっているの。

父 これといったことはしていない。父さんは、大事な母さんや君のために働いているのに手一杯なんだが、私自身、会社の仕事を通じてやっているともいえる。

子 ……

父 そうだなあ、お祭りか。

（父親は煙草をくわえ、コーヒーカーップを手に持ったまま考え込んで）

母 どうなさったの、お父さん。お加減が悪いの。

父 違うよ、交流展を見ながら、ふと気が付いたことがあったんだよ。

母 何か楽しいお祭りみたいだね。母 確かにお祭りかも知れないわね。市民が見たり楽しんだりする大きなお祭りだよ。

父 そうだなあ、お祭りか。

（父親は煙草をくわえ、コーヒーカーップを手に持ったまま考え込んで）

母 どうなさったの、お父さん。お加減が悪いの。

父 違うよ、交流展を見ながら、ふと気が付いたことがあったんだよ。

見方を変えると、私の場合もそうだが、海外交流って何か日常生活のどこにでもあることじゃないかね。

母 海外交流って、私達の生活の中にあまり見られないものじゃなくて？ さまざまな異なった文化との交流なんてないわ。

父 それは少し違うように思えるんだ。例えば、スポーツ、ファッション、音楽にしても、瞬時に海を越えて情報が流れてくるし、国際市場に直接関係の無い私の仕事でさえも、海外情報が必要としているからね。

母 そうかしら。そうすると私がデザートに、ワインやキウイを買うことも海外交流になるのかしら。

父 その通りだよ。君が買う大半の商品の原料は海外から来たものだからね。そのため市内あちこちに外国系企業もある。こう理解したらどう。

母 どう。

父 私達の世界は相互依存を深めた結果、物、人、金、情報などは言うに及ばず、日常生活さえも、私達の全く見知らぬ、遠い異文化の人々との係わりを抜きにしては成立しなくなってきた。私達の平凡な日常行動すら、例外なく、その係わりから逃れることができなくなってきた。

母 生活自体が海外交流というわけね。

でも都市の間の交流が増大しているのはなぜかしら。

世界の都市

(父はコップの底に残った冷めたコーヒーをすすりながら)

父 そうだなあ、都市は世界との相互依存関係を認識し易い側面を持っているといえるからじゃないかなあ。

子 どうして認識し易いの。

(父はタバコに火を付けて)

父 第一に都市は市民の生活に必要な物やエネルギーを自給できないので常に都市外から輸入せざるをえないから。

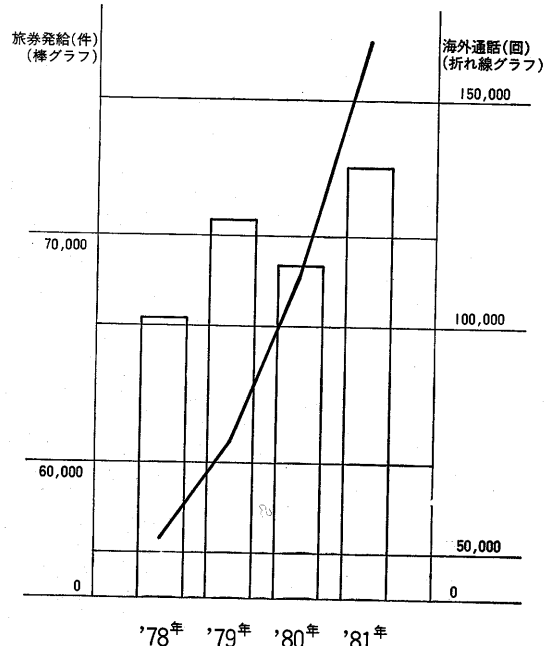
子 日本は資源が乏しいので国内の他地域からの移入じゃすまないというわけでしょ。

父 その通りだね、都市が海外に依存している事実をまざまざと私達に認識させたのは、あのオイル・ショックだったといえる。知識としてはわかっているつもりだったのだが、少しも、わかっていたのだな。多くの市民も同じ気持ちだったと思うな。そして、なまじ知っているから、あんな騒ぎになったのではないかな。

子 オイル・ショックって何。

父 お前はまだ小さかったから覚えていないだろうけど、一九七三年秋、中東のイスラエルとアラブ諸国との間で戦争が

図一6 市内の旅券発給件数及び海外通話回数



図一7 市内の外資系企業区別分布



起り、産油国であるアラブ諸国は戦争を有利に展開するために石油の輸出を制限したんだ。そのおかげで、都市では石油、石油製品、石油を消費する製品の値があがり大騒ぎになったんだよ。

母 私も、なぜトイレット・ペーパーが無くなるのか、わからなかったけれど、隣の奥さんに誘われて、一緒に買いに行ったの覚えてるわ。皆さん、今にも物が無くなってしまいうようなこと、言うんですもの。

子 そうだったの。都市が相互依存関係を認識し易いわけて、それだけ。

父 もちろん、それだけじゃないな。第二に都市は工業と商業の中心地であり、工業製品を都市外へ移輸出しているから。つまり世界の動向に無関心ではいられない。第三に都市は偏っているものの人、情報、カネが集中や拡散しながら通過しているから、都市に居ながら、世界がわかる。つまり、市民が現場に行かなくても、情報はやって来る。又、手軽に現場へ行く人も増加している。

母 そうね。簡単に海外に電話したり、ちよつとそこまで、と言って、ハワイ、アメリカへ行く人いるもの。

父 地球全体がいっそう都市化すれば、それだけ人々は相互依存関係にあることを知り易くなり、交流がますます増すかも知れないよ。

### 横浜独自の交流の源泉

子 でもお父さん、横浜が海外交流する独自の理由が何かあるんじゃないの。

(父は市民生活白書をめくりながら)

父 そうだね。特に横浜が熱心なのは、それなりの理由があると思うよ。

母 例えば。

父 横浜は都市として、世界とのつながりを認識し易いことは今まで言った通りだ。それに加えて、横浜のアイデンティティともいべき独特の何か喪失してしまっているといった危機感が市や市民にあるのかも知れないよ。横浜といえはイメージとして、ミナト横浜といわれるかも知れないけど、六〇年代に始まる人口の増加によって、横浜の郊外が東京のベットタウン化した時から、そのイメージは二重化したといえるよ。つまり、外からの強力なイメージと住む人の実際のイメージが異なってしまうんだな。

母 横浜市民はオリジナルを求める気風があり、海外交流を望んでいる市民が多いって意識調査の結果が、ネルにでいたわ。それにこの交流展にこんな多くの市民が来るのですね。

子 でも、何か足りないような気がするよ。横浜は交流の場としての新しい横浜を創ろうとしているんだよ。

父 そうだね、二十一世紀プランにみられるように、新しい横浜を創って

としているのだね。その際の拠り所として、都市も含め、市民一人一人の指針になる原則のようなものが必要だね。

子 一体それは何。

### 自治体交流の原則

父 それは、横浜市民とか、上海市民とか、ボンベイ市民とかいう意味で、いわば市民性の原則とでもいうべきものだと思うな。つまり、あくまで、市民と市民

との交流であることを認識することであって、国とか民族とかイデオロギーとかは直接関係がないと考えて行動する必要があることだよ。次に、第二の原則になるかも知れないが、それによって市民個人として、異文化の市民と対等に、平和に、共に生きるという共生の感覚が自然に出来るんじゃないかな。そして、更に、私達のような平凡な市民が日常生活を通じて、都市と世界との関係に、参加している事実を認識していくことになるんじゃないかな。それにより、主体的に市民が自分のこととして国際社会に参加していくことになるのじゃないかな。

母 市民の海外交流原則というわけね。

父 またこの原則は交流相手にも適用される必要があるね。異文化の相手を理解しなくてはならないが、相手もこちらの市民レベルとか民間レベルの原則を理解して、同等の立場をもたなければ都市の

図一八 二方向と国際化のイメージ



交流はむずかしいだろうからねえ。こうした行動は、南北問題、東西問題、核支配の問題とか、これまでの国際社会を見る観点と異なったものとなると思う。そして自治体とか市民間の交流が増せば、それだけ、こうした困難といわれる問題を今までは別の発想で打開する可能性も出て来ると思うな。それが、この交流の持つ平和創造の重要な側面かな。

母 私達一人一人の平和創造のための交流ってわけね。

父 いくつもあったパネルを見てみると横浜はこれまでの交流で、この原則を実践的に確立している感じがするね。それは自覚的ではないかも知れないが。たとえば、パネルで見た一九七四年の第二回アジア卓球選手権大会の際、政府の未承認のカンボジア政権が、国家として自国パスポートで入国しようとして固執したため横浜市側はカンボジアに参加してもら

ことを断念せざるをえなかった。これは横浜市がこの大会は市民と市民の交流であることを貫き通した結果といえるね。

交流原則の限界？

母 しかしそれは、その原則には一定の限界もあるということかしら。

父 そうだね。この原則が実際に適用される際、相手がそれを認める必要があるという点で、原則自体に限界があるともいえるが、それだからといって相手に原則を認めてもらう努力を怠ってはいけません。自覚的では無かったにしても原則を築きあげてきた経験を新しい横浜の創造に生かしていくにはね。

子 お父さんは、むずかしいことを言っているけど、要するに横浜市や横浜市民が交流することは、日常生活の中にたくさんあるが、それには、それは一人一人の力で乗り越えられる困難かな。父 海外交流というものが、だんだんは

つきりしてきたねえ。そう、市民一人一人が、少し発想や観点を変えれば、家庭でも、職場でも、学校でも、海外交流をその場、その場で自然に行っていることがわかるってどうかなあ。

母 じゃ、私も、買物でやっているわけね。だけど、時間に余裕があるから、婦人会を通じて、近所にいる難民の家族の方のおつき合いをしていきたいわ。きつと何か困ったことがあると思うし、ベトナム語も教えてもらえれば、違った文化を学ぶことが出来るわ。

父 私は仕事を通じて、もう一度再確認して、その重要性を知っているわ。

母 皆バラバラだけど、交流という面じゃ一緒ね。お父さんにも、難民の方のことで相談するかも知れないわ。

子 一見バラバラな交流活動に見えるけど、一つの要によって、どこかでつながっているんだね。何かウチみたいだね。(笑い)

△参考文献△

C. Alger: Your Community in the World: The World in Your Community.

(1974 Columbus: Ohio State University, Mershon Center)

——: "Foreign policies of U. S. Publics"

(Int'l Studies Quarterly Vol. 21,

No. 2, June 1977, Sage Publications) 横浜市海外交流協会「都市と国際化」参照

J. Rosenau: Study of Global Interdependence.

(Nichols Publishing Company. N. Y., 1980)

K. Kumar(ed): Bonds without Bondage.

(Honolulu, East-West Center, 1976)

馬場伸也「国際主義と地方主義」(日本政治学会年報「八二年一〇月」)

「アイデンティティの国際政治学」

(東大出版会 八一年一二月)

横浜市海外交流協会「都市と国際化」

(弘文堂 八二年)

国際交流課「地方自治体における国際

交流」(横浜市経済局「横浜経済と

市民生活」七六年)

横浜市海外交流協会「第二回ヨークシ

ンポジウム報告書」(八三年)

横浜市「卓球は世界を結ぶ」第二回ア

ジア卓球選手権大会報告書(七四年)

「横浜はいま——市民生活白書」(八

三年)

△石川孝樹△横浜市海外交流協会△加藤

勝彦△企画財政局都市科学研究室△川崎

圭子△衛生局港湾病院庶務課△佐藤則義

△総務局職員厚生課△瀧澤啓子△道路局

港南土木事務所△中村豊仁朗△道路局新

交通担当△長谷川隆△道路局緑土木事務

所△前田清隆△企画財政局用地調整課△

牧野孝男△道路局管理課△

協力△森泰章(イラストレーター)